

新しい心臓検査を導入しました

-FFRCT 解析-

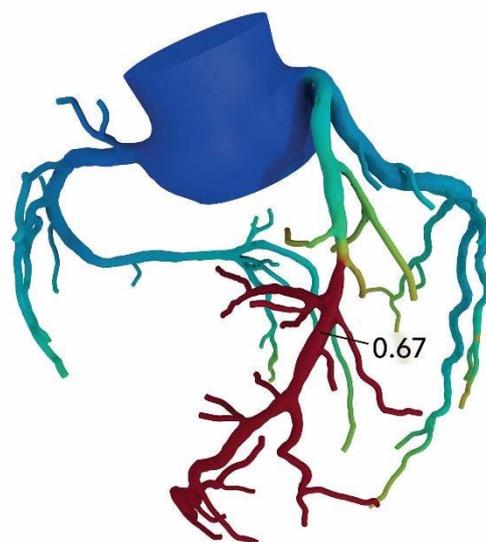
横浜市立市民病院では、新しい心臓の検査である FFR_{CT} を導入しました。この検査では、動脈硬化で冠動脈が狭窄し運動時に心臓の筋肉に必要な血液を供給できなくなる狭心症（疑い）の患者さんに対して、コンピュータによるシミュレーションで血流を推定します。

従来は冠動脈 CT 検査で冠動脈狭窄が見つかった場合にも、その狭窄が“心筋への血流にどの程度影響を与えているのか？” “狭心症の原因となっているのか？”までは分かりませんでした。特に中等度狭窄（ボーダーライン）と呼ばれる血管径で半分程度に狭くなっている場合や複数の狭窄がある場合は冠動脈 CT 検査の結果だけで治療適応の有無を判断することは難しく、負荷心筋シンチグラムを追加したり、侵襲的な心臓カテーテル検査（冠動脈造影）を行って決めていました。

FFR_{CT} 解析は非侵襲的検査（血管内操作を伴わない検査）であり、既に撮影を済ませている冠動脈 CT 検査の画像データをもとに最新のコンピュータ技術で追加解析を行いますので、再度の造影剤の使用、放射線被曝がありません。この検査では、それぞれの狭窄が心筋の血流にどのような影響を及ぼしているか各患者さん個別の冠動脈 3D モデルで解析結果を視認できます。

このような情報は、今までは侵襲的なカテーテル検査でしか得られなかったものですが、FFR_{CT} 解析の導入により、非侵襲的検査での診断が可能になりました。

この画期的な FFR_{CT} 解析を導入するには厳密な施設基準が設けられており、現段階では全国でも数少ない施設でのみ導入されています。2021年4月現在、横浜市内では当院でのみ FFR_{CT} 解析が可能となっております（神奈川県下で3施設）。



FFR_{CT} 解析の良い点はなんですか？

- 外来での検査が可能で、既に撮影されている冠動脈 CT 画像データを用いて解析を行います。
- 非侵襲的検査であり、患者さんに優しい検査です。

FFR_{CT} 解析で注意する点がありますか？

- **他の病院で行った冠動脈 CT の画像は使用できません。**他の検査同様に検査費用がかかります。
- FFR_{CT} 解析は、同意書への署名が必要となります。
- 冠動脈バイパス術後、冠動脈ステント留置後、左冠動脈主幹部病変例など解析できない症例が存在します。
- 日本人に多い冠動脈の痙攣（冠スパズム、冠攣縮性狭心症）は診断できません。
また同月に施行できる心臓関連の検査に制限がかかります。

当検査を受けることを希望（検討）される患者さんは、他院で冠動脈 CT（CT アンギオグラム）を受け
る前に当院を受診してください。

横浜市立市民病院循環器内科